



創立四十周年

賢く 優しく 逞しく

5月号・令和2年5月12日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/> 武蔵村山市立第五中学校

創立四十周年の歴史と伝統をつなぐ

校長 榎戸 千代子

風薫る5月を迎えました。この時期になると次の句が浮かびます。

目には青葉 山ほととぎす 初鯉 (はつがっお) 山口 素堂 (江戸時代の俳人)

目にも鮮やかな「青葉」、美しい鳴き声の「ほととぎす」、食べておいしい「初鯉」と、初夏に見られる風物を目、耳、口の五感で詠み上げている、季節感あふれる句です。このように季節は移り変わっていきませんが、学校は臨時休業が続いています。現在は家庭での課題学習が中心となっていますが、今月号で紹介している「e ライブラリアドバンス」等のICTを使った学習サイトも御活用ください。今後学校が再開しましたら、長期休業中や土曜日の授業も実施してまいります。心配ごと等ありましたら遠慮なく学校へ御相談ください。

さて、5月1日は、本校の開校記念日です。昭和55年、まだ武蔵野の面影が残る武蔵村山市の西南のこの地に、第一中学校から分かれ、五番目の中学校として誕生しました。校長室には、農地に囲まれ、畑の真ん中に一棟、凜として立っている開校当時の校舎の写真が飾られています。当初は校舎のみで、その後7月にプール、10月にテニスコートや体育館が完成しました。当時の市の人口は56,942人、四十周年を迎えた令和2年の人口は、72,277人(4月1日現在)と増えました。すでに卒業生は、令和2年3月末で8,623名となりました。

校章の由来は、生徒手帳にも書かれていますが、武蔵村山市の特産であるお茶の葉と花をデザインしたものです。五枚の花びらは、「和」を示し、三枚の葉は、教育目標の「優しく」「賢く」「たくましく」を下の葉より示し、さらには三つの学年も意味し、十本ある葉脈は、調和と完全を象徴していると言われています。



初代の菅井昭夫校長先生のもと、当時の教職員、そして保護者や地域の皆様が一体となって教育目標である、「賢く」「優しく」「たくましく」の実現に向け努力し、今日の第五中学校の礎を築きました。地域に誇れる学校として、道徳教育に力を注ぐとともに、言語活動や読書活動、日本の伝統・文化理解教育、人権尊重教育等、様々な研究を積み重ねてきました。開校当時の「明るく元気なあいさつ」は、現在も生徒会と校区児童会合同の「あいさつ運動」として受け継がれています。また、その間、平成16年から始まった「五中フェスティバル」は保護者や地域の皆様の御協力のお陰で、長く継承されています。落ち着きがなく、地域の皆様に御迷惑をおかけした時代もあったようですが、生徒の手で創り上げる「行事が盛んな学校」、「部活動が盛んな(強い)学校」、「地域と連携している学校」として、今日に至っています。先輩方が築いてこられた「さわやかなあいさつ」や「自主・自立の精神」は、本校の良き伝統であり、校風となりました。

このような歳月を経て、本校は今年度創立四十周年を迎えました。すでに昨年度末より、四十周年記念事業実行委員会を立ち上げ、準備を進めております。記念式典については当初10月を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在再検討中です。詳しいことが決まりましたらお知らせいたします。生徒、保護者、地域の皆様方とともに四十周年のお祝いができればと思います。今後も本校の良き伝統を受け継ぎ、発展させていけるよう教職員一同一丸となって取り組んでまいります。保護者、地域の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

明るいあいさつ・みんなの笑顔 第五中学校区(二小・八小・十小・五中)